

日中女子大学生接触場面における断り言語行動の一考察

—日中女子大学生の会話タスク分析を中心に—

袁 儀 萍¹・羅 鵬²・奥 村 圭 子³

要 旨

日常的な会話の中での「断り」談話において、断り手は依頼側との人間関係に配慮しながらも、断るという目的を遂行しなければならない。「断り」のやり取りは単に一往復の会話だけで終わることは少なく、断っても再度依頼や代案が示され、互いに相手の状況や心理状態を気遣いつつ、談話展開が行われる。それが異文化間の「断り」となると、中間言語語用論の研究が示すように「言語や社会規範の異なりにより、衝突が起きやすい」のである。本稿では、日中接触場面において、日中女子大学生の断り方の使用実態について分析し、どう断るのが相手を傷つけずコミュニケーションとして適当であるかを知り、両国の若者が異文化間コミュニケーションの中、日中の言語使用と文化に対する理解を深め、円滑なコミュニケーションを行うための一助としたい。

キーワード：日中女子大学生、接触場面、断り、会話タスク、日中対照研究

1. はじめに

近年、日中経済交流がますます盛んに行われていく中で、両国の留学生も率先して日中文化交流の架け橋になるべく、取り組んでいる。JASSO¹⁾の「外国人留学生在籍状況調査」によると、2019年5月1日現在の外国人留学生数は312,214人であり、留学生数を最も多く送り出している国・地域は中国で、124,436人という。しかし、一衣帯水の日本と中国とはいえ、言葉や文化、社会的慣習などが共通しているとは言い難い。そこで、日中の異文化間コミュニケーションの中でも特に両国の留学生が接する場合、起こりうる誤解や摩擦、誤ったステレオタイプなどを回避し、よりスムーズなコミュニケーションを実現するために、日中言語コミュニケーションの実際の差異に焦点を合わせ、究明する必要があるのではないかと考える。

Brown & Levinson²⁾は相手のフェイスを脅かす可能性のある行為を総称して「フェイス脅かし行為 (face-threatening act: 以下、FTA)」と呼んでいる。「断り」は人間関係の中で相手を頗る傷つけやすい行為だと考えられ、まさにFTAだと言える。断り手は、依頼側との人間関係に配慮をしながらも、断るという目的を達成しなくてはならない。また、「断り」のやり取りは単に一往復の会話だけで終わるとは限らず、断っても依頼側は再度依頼や提案を行いながら、相手の状況や心理状態を気遣いつつ、談話展開が行なっていく。そのため、日中接触場面において、どのように断れば相手を傷つけず、人間関係をうまく保てるかを知ることは重要である。しかし、これまでの「断り」に関する先行研究、特に日中対照研究の多くは、主にDCT (discourse completion test 談話完成テスト: 以下、DCT) をはじめ、筆記による質問

紙調査などの方法を用いて行ったものが多く、被験者は与えられた文脈に合うと考える応答を記入する (Kasper and Dahl³⁾) 形でデータが収集されており、実際の自然会話とはかけ離れたものである。自然会話に近いデータに基づいた研究は、管見の限りあまり見当たらない。

そこで、本稿では、パイロット・スタディを基に会話タスクを考案し、フォローアップ・アンケートを補助として用い、日中女子大学生接触場面における断り言語行動を調査する。本稿の目的は、

- 1) 日中、中日、日日の3つのグループそれぞれ5ペアの「断り」の比較
- 2) 日中女子大学生接触場面における「断り」言語行動の類似点と相違点

の2点について、分析、考察、検討を試みることである。

2. 先行研究

円滑な人間関係を維持することを目指し、1980年代より「断り」に関する研究が多く行われている。稲垣⁴⁾は断る側の視点から、「断る」という行為は、「相手の意向に反して遂行しなければならないため、人間関係を損ねる危険性を持つ、難しい言語行動の一つ」と述べ、「断り」の言語的な成分や特徴だけでなく、断る側の心理的な側面も解明している。Brown & Levinsonは、ポライトネス理論の中で「フェイス」という概念を「ポジティブ・フェイス」と「ネガティブ・フェイス」の二つに分類している。前者は「すべての構成員が持っている、自分の欲求が少なくとも何人かの他者にとって好ましいものであってほしいという欲求」、後者は「すべての能力ある成人構成員が持っている、自分の行動を他者から邪魔されたくないという欲求」である。Brown & Levinson

¹ 西南交通大学日本語学部所属、2018年10月より2019年9月まで山梨大学国際交流センターに交換留学生として在籍

² 西南交通大学日本語学部所属

³ 山梨大学国際交流センター所属

は、「断り」は「話し手が聞き手のポジティブ・フェイスを脅かす行為 (FTA)」だと述べている。藤⁵⁾は「断り」について言語的な要素に留まらず、非言語的な要素にも触れており、「口頭での会話において、相手の働きが始まってから会話が収束するまでの断り手の一連の発話で、働きかけを聞いている時の反応や相槌、笑いなどのパラ言語的要素も含む」と定義している。本研究では、藤の定義を「断り」の定義とする。

また、「断り」を対象とした日中対照研究もいろいろなされている。加納・梅⁶⁾はアンケート調査を行ない、意味公式の分類項目を「詫び先行型」や「理由先行型」「結論先行型」など「+」を組み合わせた形で意味公式の分類をまとめているところが特徴的である。また、肖・陳⁷⁾はDCTを援用し、依頼に対する断り表現について日中対照研究を行った。日本語からの転移の可能性を考え、日本語を専攻する人を対象外にし、日本人と中国人の大学生や大学の教職員を対象者とし、年齢の差に焦点を当てている。王・山本⁸⁾は質問紙調査と面接調査を行い、中国人は「助言」を「ありがたい」と受け止める一方、日本人は踏み込まれたくない領域があるので「助言」を「助言」として受け入れることにならず、拒絶するような形での「断り」になっていると報告している。しかしながら、これらの日中対照研究はあくまでも自然会話に近いデータに基づいたものではない。

研究手法の観点からは、他にもさまざまな「断り」の先行研究がなされている。堀田・堀江⁹⁾は中間言語語用論の観点から、「断り」行動におけるヘッジを日本語でオープン・ロールプレイを用いて考察した。また、馮・徐¹⁰⁾のように、日本現代都市ドラマのセリフを言語資料にし、断りの場面を一つ一つ記録し、分析したものもある。このような「断り」の研究は、日本語学習者の日本語やドラマの日本語に注目し、考察している。一方、藤は音声データを評価者に聞かせ、好ましい順に順位付けをしながら、その過程での心的思考をできる限り口に出してもらい、録音するというプロトコル分析とインタビューを用いたが、他の人の断り行為を評価することに重点が置かれており、実際にどのように断るかについては言及していない。そこで、本稿では、日中女子大学生接触場面における「断り」を対象として、これまでの日中対照研究ではあまり取り上げられていない、そしてより自然会話に近いデータ収集が可能な「会話タスク」を手法として選択したい。

3. パイロット・スタディ

質的研究法の一つとしてクリティカル・インシデント法 (critical incident technique (CIT)) がある。Flanagan¹¹⁾によって研究方法の形として定められたもので、幅広い分野で使用されている。二宮¹²⁾は「異文化コミュニケーションの分野においては、習慣、風習、言語等文化の違いより起きた問題についての事例の事であり、CITでの

内容はそれが起きた場所、どんな状況かなどが具体的に記述される。」と定義している。本研究では、「断り」が実際にどのような場面で行われているかを知るために、パイロット・スタディとして中国語を母語とする女子大学生である日本語学習者4名に対し、「断り」が起きた場合のクリティカル・インシデントの記述を依頼した。起きた問題の事例については

- 1) それが発生した場所や背景
- 2) どんな状況で何が起きたか
- 3) なぜそのようなことが起こったのか、その理由
- 4) どうすればその問題を解決あるいは回避できるのか
- 5) 実際に再度同じような状況に置かれた時、どう対応するか等を記述してもらった。以下は一例である。

- 1) 場所や背景：11月20日の夜、友達がウィーチャットでメッセージを送ってきた。その時は自分の部屋にいた。
- 2) 出来事：友達が「千葉県で行われるイベントと一緒に行こうよ」と誘ってくれた。しかし、私は断った。
- 3) 理由：その時はN1の試験前で、受験の準備をしなければならなかった。
- 4) 対応：まず友達に謝った。そして「他の人に聞いてみたらどう？」と言った。
- 5) 同じようなことが起きた時にどう対応するか：自分に余裕があるか考えて答える。

以上のように記述された「断り」のクリティカル・インシデント例は計16件であった。そのうち、「誘い」に対しては6件、「依頼」に対しては9件、「思いやり」に対しては1件であった。それに加え、王・山本による「助言」場面における断り行動も起こり得る」という研究結果を踏まえ、本研究では「誘い」「依頼」「助言」「思いやり」の4つの場面における「断り」を考察することとした。

4. 研究方法

Spencer-Oatey¹³⁾は「会話タスク」とは「誘出会話」(elicited conversation) の一つの種類であると示し、「参加者はあるトピックについて話したり、研究者によって定められた特定のゴールに共同で到達することが要求される。」と述べている。一方、「参加者は自分自身と違う社会的役割を担うことはないが、研究者によって割り当てられた談話上の役割を演じる」という、ロールプレイと異なる点も説明している。

本研究では、調査協力者である日本語母語話者&中国語を母語とする日本語学習者(以下JCとする)の友人同士5組、中国語を母語とする日本語学習者&日本語母語話者(以下CJとする)の友人同士5組と日本語母語話者の友人同士(以下JJとする)5組の日本語による

3分間の「誘い」「依頼」「助言」「思いやり」場面における「会話タスク」データを収集し、書き起こした。協力者は全員20代前半の女子大学生である。ここで重要なのは一番目の協力者が「誘い」「依頼」「助言」「思いやり」場面で仕掛ける側であり、二番目の協力者が断る側ということである。JCはJが断られた側で、Cが断り手である。CJはCが断られた側で、Jが断り手である。JJは断られた側も断り手もJであるが、この二名は異なるJである。

4つの場面における会話タスクは表4-1の通りである。

これら全場面の会話タスクに沿った会話をJC、CJ、JJの各5ペアにしてもらうが、事前に承諾を得、パラ言語的要素を含めた観察のためICレコーダー録音とビデオ撮影をし、その書き起こしデータと発話の意図や感想などを問うフォローアップ・アンケートを補助的に使い、分析する。

表4-1 4つの場面とAとBの会話タスク

場面	Aのタスク	Bのタスク
① 「誘い」	友達のBさんを、今週の週末買い物に行かないかと誘ってください。もし断られたら、うまく対応してください。	友達のAさんの誘いを断ってください。
② 「依頼」	期末テストが迫っています。友達のBさんにノートを見せてほしいと頼んでください。もし断られたら、うまく対応してください。	友達のAさんから、あることを頼まれますが、断ってください。
③ 「助言」	部活も勉強も忙しそうなの友達のBさんに部活を減らしてはどうかと助言してください。友達のBさんのいうことに対応してください。	友達のAさんから助言をされますが、あなたはその助言を素直に受け入れられません。助言通りにできないと伝えてください。
④ 「思いやり」	友達のBさんは最近ずっとインスタントラーメンを食べています。体にもよくないので、食事を御馳走したいと申し出てください。もし断られたら、うまく対応してください。	友達のAさんがあなたのために提案をしますが、断ってください。

5. 結果と分析

5.1 分析方法

本研究では「断り」言語行動に使われた意味公式を抽出し、それらの意味公式によって、日中女子大学生の断り方の使用実態について分析・考察を行う。意味公式とは「発話行為を構成する最小の機能的な意味単位を指す(藤森¹⁴⁾もの」で、表5-1に示す「意味公式の分類」は、加納・梅、周¹⁵⁾、吉田¹⁶⁾、王・山本、蒙¹⁷⁾を参考に本稿のデータに合わせ、調整・作成した。

表5-1 意味公式の分類

	意味公式	意味機能	具体例
1. 直接的な断り表現	1. A	遂行動詞を使う断り方	いけない、見せられない、減らしたくない、減らせれない
	1. B	遂行動詞を使わない断り方	ダメ、いい、大丈夫、いけない、無理、違う、できない、難しい
2. 間接的な断り表現	2. A	弁明(理由) 相手の意向に沿えない理由の説明	…から、…だから、…ので
	2. B	お詫び 相手の意向に沿えないことについて謝る	ごめんね、すみません、すいません
	2. C	代案 問題解決の方法として他の方法を提示	
	2. C. 1	自己参加前提の代案 自分自身が参加することを前提に代案を立てる	お金ある時にまたこちら声かける、一緒に先生のところに行く、レシピを教えてください
	2. C. 2	自己不参加の代案 自分が参加せずに他の方法を提示する	他の人に聞いたらどう?りょうちゃんとか?自分で作ったほうがいいよ、誰かに当たってみよう
	2. D	共感 相手の意向に沿いたい積極的な気持ちを表す	ぜひ、見せてあげたいんだけど、減らしたいんだけど、たまにはいいけど、ご飯一緒に食べたい、行きたいんだけど
	2. E	遺憾 相手の意向に沿えないことに残念な気持ちを表す	残念、空いてるけどお金がない…
	2. F	感謝 相手の好意に謝意を表す	ありがとう、ありがたい、うれしい
	2. G	今後への言及 今後のことに言及する	今度、これから、また誘ってね
	2. H	回避 間接的な態度表明	
	2. H. 1	繰り返す 相手の話の一部を繰り返す	
2. H. 2		言いよどみ 断り表現を和らげる働きをする	…けど…、…なの…、でも…、あのう、どうだろう、うーん、そうですね…
2. H. 3		言いさし 相手の意向に沿えないことをすらすら言わない	ちよつと、少し、どうしても、準備が…さすがにちよつと…微妙、
2. I	保留 答えを保留する	まだわかんないんだけど、考えさせて	
3. その他	3. A	間投詞的な表出 相手に驚きや悩みなどの心情を伝えるための表出	いや、えっ、あ、ああ、へえ、本当?えマジ?
	3. B	あいづち 相手にあいづちを打つ	そう、なるほどね、わかったよね…、そうだけど

5.2 全体的な意味公式出現数の合計と分析

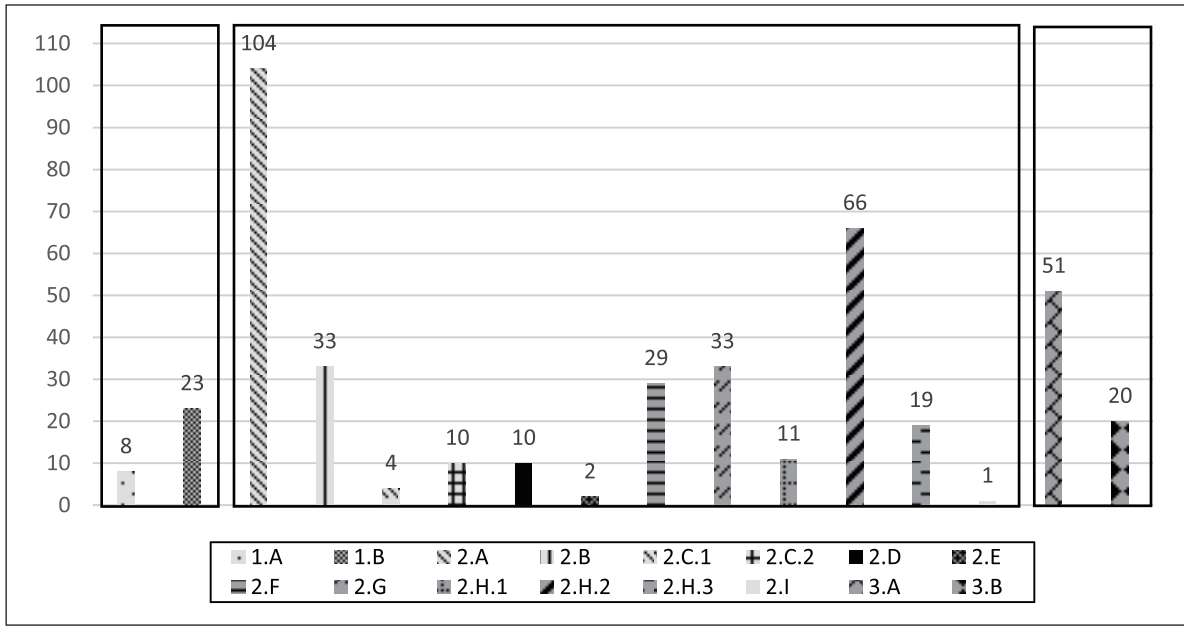


図5-1 意味公式出現数の合計

図5-1を概観すると、断り手が日中に関係なく、以下の点が明らかになった。

まず合計は424例で、直接的な断り方に比べ、間接的な断り方が圧倒的に多く使用されており、直接的な断り方は合計の7.3%のみであった。また、一番頻繁に使われた戦略は「2.A 弁明」、つまり理由の説明である。その次は「2.H.2 言いよどみ」と「3.A 間投詞的な表出」である。いずれも50例に達した。

5.3 JC CJ JJ 3グループの戦略ごとの意味公式の比較

表5-2に示すのは、3グループの戦略ごとの意味公式の比較であるが、以下の3点が示唆された。まず、日中を問わず、断り手による「2.A 弁明」の使用率が圧倒的に高いことである。また、直接的な断り方は全体的には少ないが、JはCより「1.A 遂行動詞を使う断り方」を多く用いている。J、C共に「1.B 遂行動

表5-2 JC CJ JJ 3グループの戦略ごとの意味公式出現数

意味公式		JC	CJ	JJ	計	
1. 直接的な断り表現	1. A 遂行動詞を使う断り方	1	4	3	8	
	1. B 遂行動詞を使わない断り方	8	4	11	23	
2. 間接的な断り表現	2. A 弁明 (理由)	33	39	32	104	
	2. B お詫び	11	11	10	33	
		代案				
	2. C. 1	自己参加前提の代案	1	1	2	4
	2. C. 2	自己不参加の代案	3	3	4	10
	2. D	共感	2	4	4	10
	2. E	遺憾	1	1	0	2
	2. F	感謝	9	10	10	29
	2. G	今後への言及	11	10	11	33
		回避				
	2. H. 1	繰り返し	4	3	4	11
	2. H. 2	言いよどみ	21	21	24	66
2. H. 3	言いさし	6	7	6	19	
2. I	保留	0	0	1	1	
3. その他	3. A 間投詞的な表出	16	17	18	51	
	3. B あいづち	2	8	10	20	
					424	

詞を使わない断り方」が多く使用されているが、Jは、Cとの接触場面では4例しか使っていない一方で、J同士の場面では11例にも及ぶ。最後に、Jが断る場合、C、Jの両者に対して「2.D 共感」、「3.B あいづち」を使っているが、Cが断る場合よりやや使用が多い。

5.4 JC CJ JJ 3グループの場面ごとの意味公式の比較

5.4.1 JC CJ JJ 3グループの場面ごとの意味公式出現数

表5-3 JC CJ JJ 3グループの場面ごとの意味公式出現数

		JC①	JC②	JC③	JC④	CJ①	CJ②	CJ③	CJ④	JJ①	JJ②	JJ③	JJ④
1. 直接的な断り表現	1. A 遂行動詞を使う断り方	0	0	0	1	2	2	1	0	2	0	1	0
	1. B 遂行動詞を使わない断り方	1	1	3	3	0	1	1	2	2	3	4	2
2. 間接的な断り表現	2. A 弁明(理由)	6	10	6	11	8	9	9	13	8	11	6	7
	2. B お詫び 代案	6	5	0	1	5	2	0	4	5	3	0	2
	2. C. 1 自己参加前提の代案	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1
	2. C. 2 自己不参加の代案	1	2	0	0	0	3	0	0	0	4	0	0
	2. D 共感	0	0	0	2	1	1	2	0	2	1	0	0
	2. E 遺憾	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	2. F 感謝	0	0	5	4	1	0	6	3	0	0	7	3
	2. G 今後への言及 回避	2	2	2	5	4	1	2	3	4	0	3	5
	2. H. 1 繰り返し	2	1	0	1	3	0	0	0	3	1	0	0
	2. H. 2 言いよどみ	6	4	4	7	4	7	7	3	3	12	4	5
	2. H. 3 言いさし	3	0	0	3	5	1	0	1	4	1	0	1
	2. I 保留	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	3. その他	3. A 間投詞的な表出	5	5	2	4	3	2	5	7	2	5	5
3. B あいづち		0	0	0	2	0	1	4	3	1	2	3	4

表5-3は、JC CJ JJの3グループが場面ごとに使った意味公式であるが、以下、「誘い」「依頼」「助言」「思いやり」4つの場面ごとにJC CJ JJ 3グループの意味公式の割合を示し、分析を行う。

5.4.2 JC CJ JJ 3グループの場面①「誘い」の意味公式の割合と分析

図5-2はJC CJ JJ 3グループの場面①「誘い」の意味公式の割合であるが、以下の点が明らかとなった。

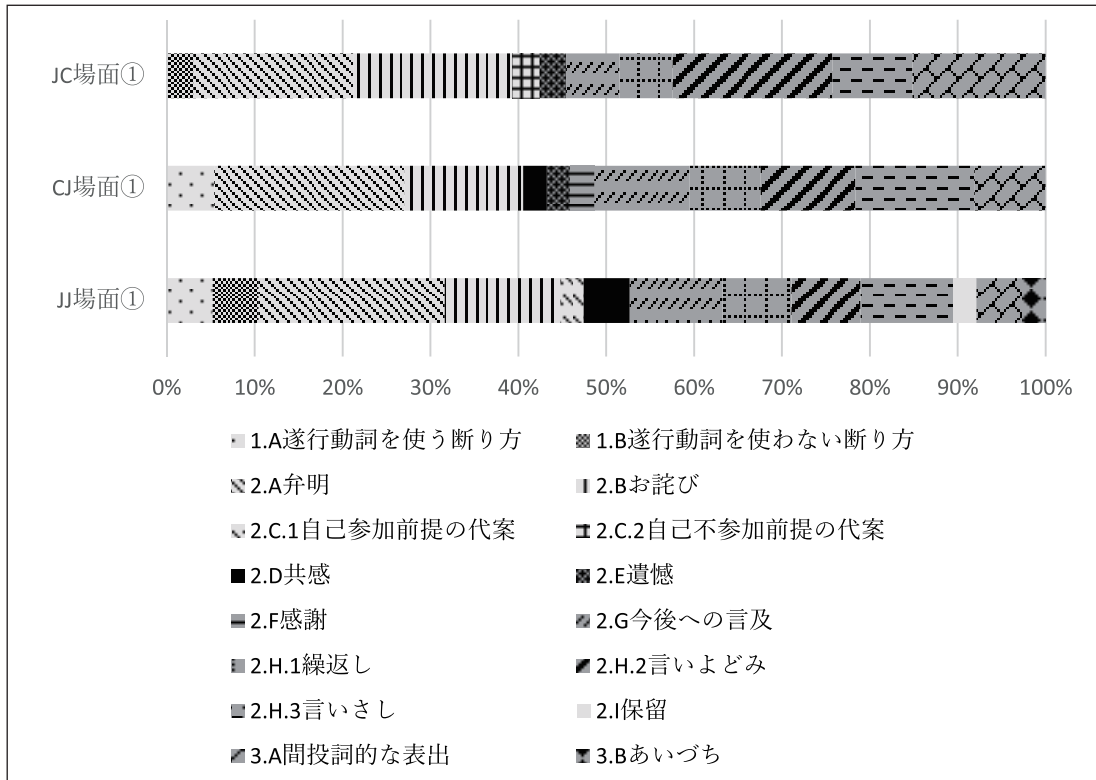


図5-2 JC CJ JJ 3グループの場面①「誘い」の意味公式の割合

まず、「1. A 遂行動詞を使う断り方」、「1. B 遂行動詞を使わない断り方」という直接的な断り表現はCJ、JJに出現しているが、Cが断り手であるJCには遂行動詞を使わないもののみ出現している。次に、「2. D 共感」はCが断り手の場合使用されていない。また、「2. F 感

謝」はいずれの断り手の場合も出にくく、CJで1例出たのみである。そして、「2. G 今後への言及」についてはJが断り手の場合、Cより多く使用している。

5.4.3 JC CJ JJ 3グループの場面②「依頼」の意味公式の割合と分析

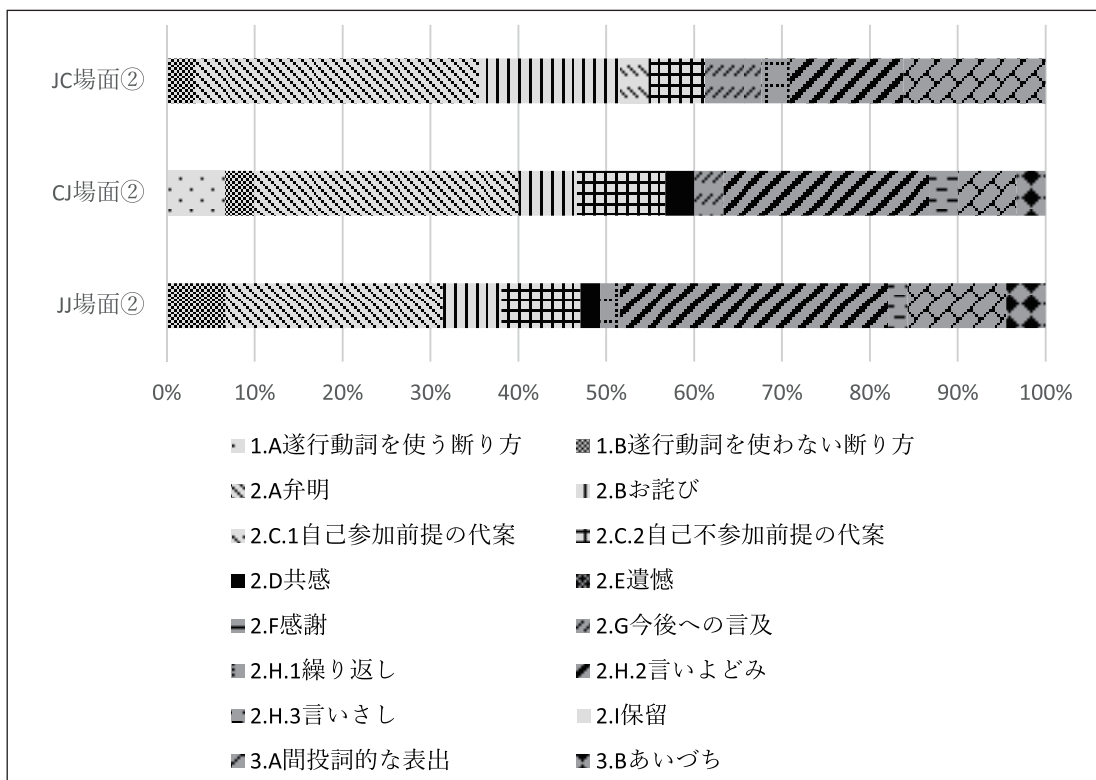


図5-3 JC CJ JJ 3グループの場面②「依頼」の意味公式の割合

図5-3が示すように、まず、「1.A 遂行動詞を使う断り方」、「1.B 遂行動詞を使わない断り方」という直接的な断り表現では、「1.B 遂行動詞を使わない断り方」がJC、CJ、JJに出現しているが、CJのみ「1.A 遂行動詞を使う断り方」を使用している点が明らかとなった。CJの1.Aと1.Bを合わせた直接的な断り表現は全体の10%にも及んでいる。そしてこの「依頼」場面ではJC、CJ、JJすべてにおいて代案が頻繁に出されているが、いずれのグループも「2.C.2 自己不参加前提の代案」を

使用している。「2.C.1 自己参加前提の代案」はCが断り手の場合のみ出現している。さらに、「2.D 共感」はCが断り手の場合使用されていない。また、Cが断り手の場合は、「2.H.3 言いさし」と「3.B あいづち」は出現していないが、一方で、「3.A 間投詞的な表出」が多く見られる。

5.4.4 JC CJ JJ 3グループの場面③「助言」の意味公式の割合と分析

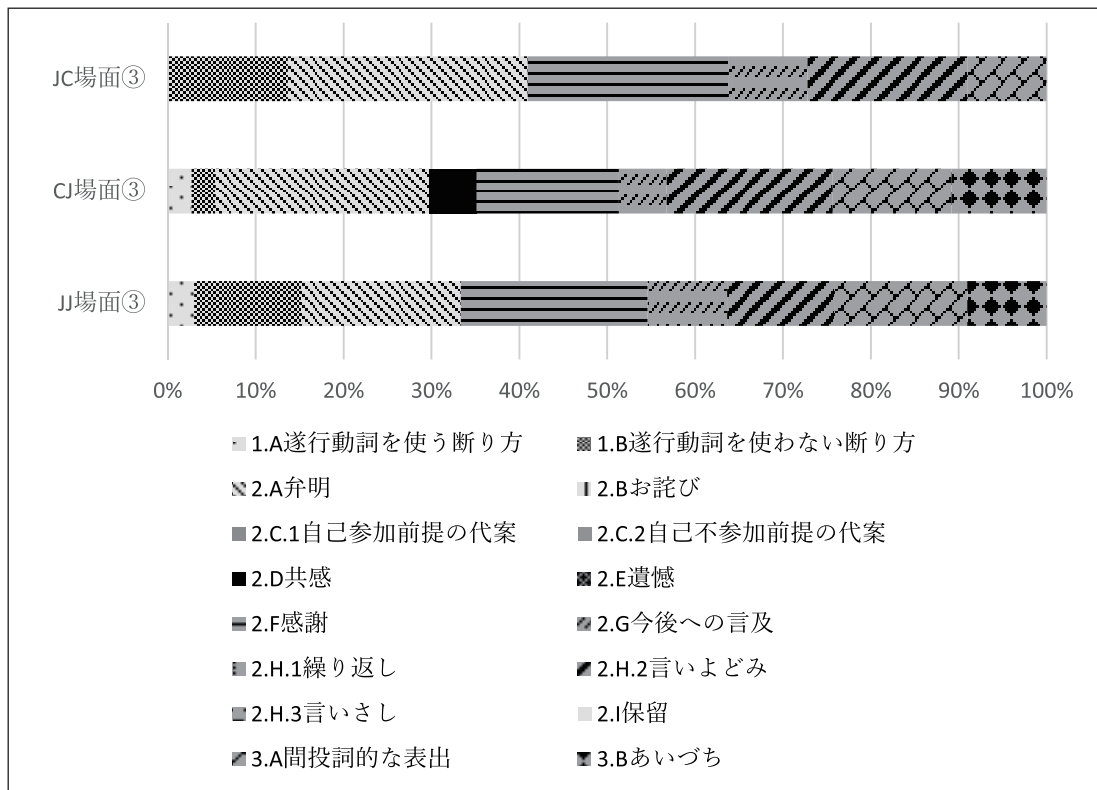


図5-4 JC CJ JJ 3グループの場面③「助言」の意味公式の割合

図5-4に示すJC CJ JJ 3グループの場面③「助言」の意味公式の割合によって分かったことは、以下の通りである。

まず、直接的な断り表現の1.Aと1.BはJC、CJ、JJに出現しているが、JCには「1.B 遂行動詞を使わない断り方」のみ出現している。そのほか、「2.D 共感」はCJのみ用いている。さらに、場面③「助言」ではほかの場面に比べ、3グループとも「2.F 感謝」を多く使っているのが特徴で、3グループいずれも20%に近い。Cが断り手の場合は、「3.B あいづち」は使用していない一方でCJ、JJは10%ほどが使用している。

5.4.5 JC CJ JJ 3グループの場面④「思いやり」
の意味公式の割合と分析

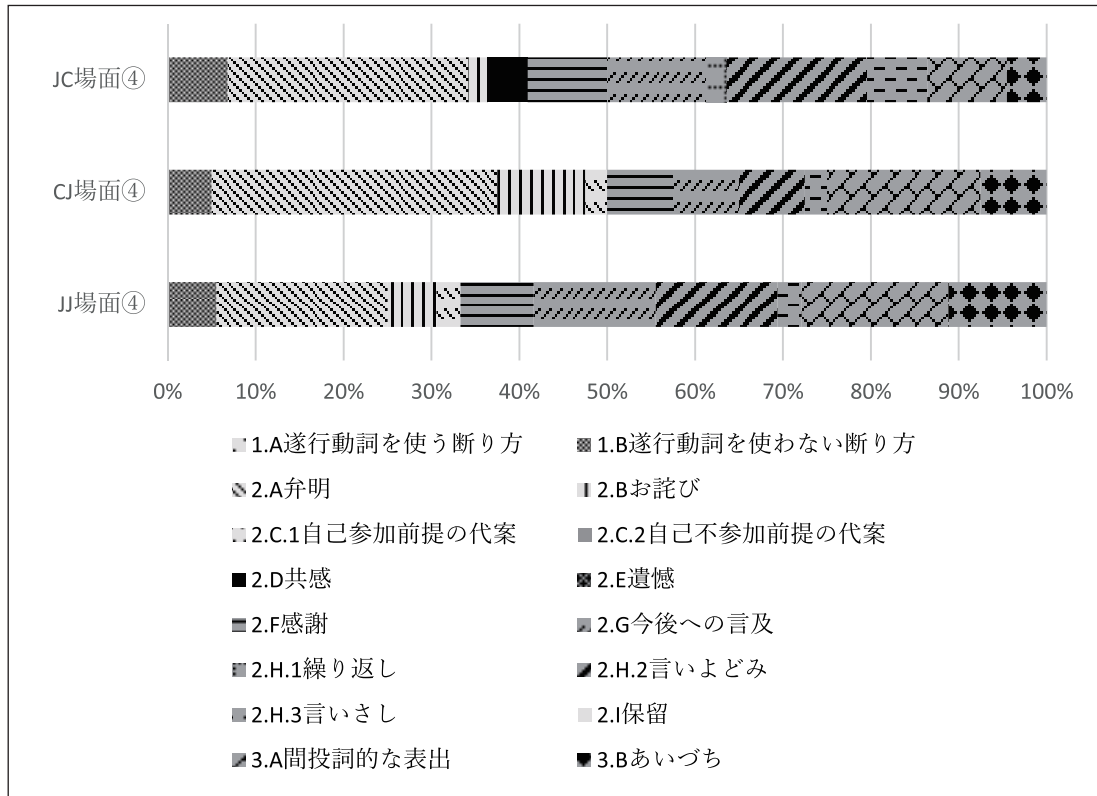


図5-5 JC CJ JJ 3グループの場面④「思いやり」の意味公式の割合

図5-5のJC CJ JJ 3グループの場面④「思いやり」の意味公式の割合からは、JC、CJ、JJいずれも直接的な断り表現のうち「1. B 遂行動詞を使わない断り方」のみ用いていることがわかる。また、代案については、3グループいずれも「2. C. 2 自己不参加前提の代案」を使っておらず、Jが断り手である時のみ「2. C. 1 自己参加前提の代案」を使用しているが、3%しか占めていない。代案の代わりに、Cが断り手の場合、「2. D 共感」を使っている。

6. 考察

6.1 全体的な考察

これまで分析結果を述べたが、全体的な考察を述べる。間接的な断り方は直接的な断り方より圧倒的に多く、直接的な断り方は全体のわずか7.3%である。これは日中ともに人間関係維持を大切にする文化背景から、より柔らかく断りの意図を表すのが好まれる傾向があるからだとして解釈できる。

意味公式の中で最も多く使用されているのは「弁明」である。本人の状況を説明し、相手の気づきや理解を求めているのではないと思われる。しかし、同じ「弁明」でも日本語母語話者と中国語母語話者の弁明の仕方は異なる。日本語母語話者は例えば、「忙しい」「用事がある」などの大まかな理由を用いている一方、中国語母語話者は自分の事情を細部まで詳しく説明する傾向が強い。例

えば、「今週の週末、私の中国の友達と約束した、東京に行く、彼女と一緒に。」といった具合である。二番目に多いのは「言いよどみ」である。言いづらいため、適当な言葉を探して断る相手に気遣い、配慮を伝えていると考えられる。

6.2 3グループの意味公式の比較

3つのグループごとの意味公式のうち、日本語母語話者は直接的な断り表現である「1. A 遂行動詞を使う断り方」と「1. B 遂行動詞を使わない断り方」のいずれも多く使用している。中国語母語話者に対しては4例であるが、日本語母語話者に対しては11例も使っている。日本語母語話者は、中国語母語話者に対して遂行動詞を使い明らかに意思表示をする一方、日本語母語話者に対しては遂行動詞を使わず伝えようとしている。中国語母語話者は「1. B 遂行動詞を使わない断り方」を多く使っているが、具体的には中途終止文を多用している。これは相手に対する配慮不足か言語表現不足か、またはそのいずれもが要因であることが考えられる。

また、日本語母語話者が中国語母語話者より多くの「3. A あいづち」を使用しているが、日本語母語話者と中国語母語話者のあいづちの使い方が異なるように思われる。前者の場合、あいづちは自分が相手の発話を聞いている合図として頻繁に使用されている。一方で、後者は相手の発話を最後まで聞くという傾向があるので、発

話の途中であいづちはあまり打たれていない。

6.3 場面ごとの意味公式の比較

場面③「助言」、場面④「思いやり」では、「2.F 感謝」が多く表出している。相手が自分のためを思ってくれているため、まず感謝の気持ちを表していると説明できる。「2.D 共感」については日本語母語話者によって場面①「誘い」、場面②「依頼」、場面③「助言」で使用されている。しかし、中国語母語話者は全く使用していない。これは相手への配慮より、自分の事情を説明する方を優先していると考えられる。また、場面④「思いやり」では日本語母語話者が相手の好意を受け入れ、共感の代わりに「2.C.1 自己参加前提の代案」を出し、できるだけ好意に応えようとするのに対し、中国語母語話者は相手の好意を受け取るだけに留まっている。

次に「2.H.2 言いよどみ」は、ほかの場面に比べ、場面②「依頼」で特に日本語母語話者によって多く使用されている。場面②「依頼」で断る場合、相手のネガティブ・フェイスを脅かす程度が4つの場面の中で最も高いため、断り手が適当な言葉を探して相手のフェイスを守り、体面を保つ必要があると捉えているのではないかとと思われる。

また、代案は、場面②「依頼」において、最もよく用いられている。断り手が自分のポジティブ・フェイスを保つため、相手の要求にできるだけ応じたい気持ちを示しているのであろう。しかし、日本語母語話者と中国語母語話者に選択された代案は少し異なっている。前者は「2.C.2 自己不参加前提の代案」のみ使用している。例えば、「もうちょっと、うちの学科で頭がいい余裕のありそうな誰かに当たってみよう」などであるが、それに対し後者は「2.C.1 自己参加前提の代案」を使用している。例えば「一緒に先生のところに行って、もう一回勉強しよう」が挙げられる。

7. 終わりに

4つの場面の誘出会話の会話タスクを通して、断り言語行動に使われた意味公式を抽出し、それらの意味公式を通して、日中女子大学生の断り方の使用実態についての分析・考察を行った。その結果、日中女子大学生接触場面における「断り」の言語行動の共通点と違いが明らかとなった。

まず、直接的な断り方として、日本人母語話者は「遂行動詞を使う断り方」と「遂行動詞を使わない断り方」のいずれも使用している。ただし、日中接触場面では遂行動詞を使って明らかに意思を表明している一方で、日本人母語話者に対しては遂行動詞を使わずに意思を伝えている。中国語母語話者は「遂行動詞を使わない断り方」であっても中途終止文を多く使用しており、それは母語を使っただけのコミュニケーションではないこともあり、相

手に対する配慮や言語表現力が不足しているためではないかと思われる。また、日中を問わず、より柔らかく間接的に断りの意図を表すのが好まれる傾向があることが明らかとなった。

また、理由を説明する「弁明」は断りの戦略として最も多く用いられている。ただし同じ弁明でも、日本語母語話者は自分の具体的な事情を説明するより、「忙しい」などのぼかし表現で十分伝わると考えている一方、中国人日本語学習者は相手に十分理解してもらうため、細かい具体的な事情説明をしている。

相手のネガティブ・フェイスを脅かす場面においては特に、「代案」が戦略として多く選択されている。ただし、中国語母語話者は日本語母語話者より積極的に相手のポジティブ・フェイスに訴えかける傾向がある。また、日本語母語話者が自分の意思を表明しながらも、積極的に相手のオファーに応えたいと考えるのに対し、中国語母語話者は「共感」をあまり使用していない。それは相手への配慮より、自分の事情を説明し、理解を求めることを優先している傾向が強いと言える。思いやりを持って相手が自分のためを思ってくれようという場面においては、まず感謝の気持ちを表すのが一般的のようである。「あいづち」は、日本人母語話者が中国語母語話者より多用している。日本語母語話者が相手の発話を聞いている合図として表明する一方、中国語母語話者の日本語学習者は最後まで発話を聞いてから使用するというところが異なる。

以上のような共通点と相違点を踏まえて、日本語教育の視点から自然な日中接触場面でのコミュニケーションを考えると、日本語学習者へ示唆されるものが見えてくる。断りの場面では、全てを具体的に説明しない弁明の仕方があること、また、特に相手のネガティブ・フェイスを脅かすような場面では、相手のポジティブ・フェイスに訴えることばかりではなく日本人母語話者同士でよく使われる「遂行動詞を使わない断り方」や、共感を示しながら自分の断りの意思を伝えるといった日本語母語話者が好んで使用する戦略を示し、練習することが有意義ではないかと思われる。

8. 今後の課題

断り言語行動の中には「結論先行型」や「弁明先行型」や「お詫び先行型」などの形式があるとされている(加納・梅 2003)が、最初に現れる意味公式の出現パターンについても、今後継続して分析をする予定である。調査協力者については、今回、3グループそれぞれ5組ずつの日中女子大学生を対象としたが、サンプル数の少なさは否めない。今後は、対象者を増やすと共に、調査の対象者を男子大学生も含め研究対象とし、ジェンダー間で対比を行いその差を分析することも考えている。

また、本稿で手法として使用した「誘出会話」の「会話タスク」は、「言いよどみ」や「間投詞的な表出」、「あ

いづち」など、質問紙調査では考察できない意味公式が考察できるという大きな利点があったと言える。しかし、これまでの検討は断りの言語行動のみに留まっているため、今後、ビデオに収めたデータを基に非言語行動についても考察したいと考えている。

謝辞：本稿のデータ収集には、多くの山梨大学の学生の皆さんにご協力を頂いた。ここに感謝の意を表す。

参考文献

- 1) JASSO「2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査等について－留学生受入れの概況－」『JASSO PRESS』
https://www.jasso.go.jp/about/information/press/_icsFiles/afieldfile/2020/04/21/jp_2020042301.pdf（2020年8月21日アクセス）
- 2) Brown, P. & Levinson, S. C. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. 1987, (2nd ed.)
- 3) Kasper and Dahl. “Research method in Interlanguage pragmatics”. *Studies in Second Language Acquisition*. 1991, 13: p215-247
- 4) 稲垣桂. 「ロールプレイ対話およびメールにおける断り表現：大学生の理由の述べ方を中心に」. 『学習院大学大学院日本語日本文学』. 2007, 3: p84-62
- 5) 藤越. 「友人への『断り』に対する評価に関する質的考察：日本語母語話者と中国人日本語話者の評価を通して」. 『言語資源活用ワークショップ発表論文集』. 2017, 1巻: p11-19
- 6) 加納陸人・梅暁蓮. 「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについての考察：断り表現を中心に」. 『言語と文化 Language and Culture』. 2003, 15: p19-41
- 7) 肖志・陳月吾. 「依頼に対する断り表現についての中日対照研究」. 『福井工業大学研究紀要』. 2008, 第二部 38: p133-140
- 8) 王源・山本裕子. 「日本人と中国人は場面の捉え方がどのように異なるか：『助言』に対する断り行動を中心に」. 『日本語教育研究』. 2016, 62: p82-99
- 9) 堀田智子・堀江薫. 「日本語学習者の『断り』行動におけるヘッジの考察：中間言語語用論分析を通じて」. 『語用論研究』. 2012, 14号: p1-19
- 10) 馮晶・徐千恵. 「日本語の婉曲表現における断りについての考察：語用論の視点から」. 『或問』. 2015, 28: p85-94
- 11) Flanagan, J. C. “The Critical Incident Technique”. *Psychological Bulletin*. 1954, 327: p51-58
- 12) 二宮いづみ. 「クリティカルインシデントの事例から見る日中異文化比較：日中同形異義語・同形類義語の事例分析をもとに」. 『日本経大論集 The economic review of Japan University of Economics』. 2014, 43 (2): p393-408
- 13) Spencer-Oatey, H. *Culturally Speaking Second Edition: Culture, Communication and Politeness Theory*. 2008, London; New York: Continuum.
- 14) 藤森弘子. 「関係修復の観点からみた『断り』の意味内容：日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較」. 『大阪大学言語文化学』. 1996, 5: p5-17
- 15) 周升干. 「断る場面における『前置き表現』について：中国の日本語学習者との比較」. 『言語文化学研究. 言語情報編』. 2008, 3: p189-210
- 16) 吉田好美. 「勧誘場面における断りのコミュニケーションに見られる代案について：日本人女子学生とインドネシア女子学生の比較」. 『群馬大学国際教育・研究センター論集』. 2011, 10: p17-32
- 17) 蒙韞. 「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの一考察：日本人会社員と中国人会社員の比較を通して」. 『異文化コミュニケーション研究』. 2010, 22: p1-28